

これは、漢方薬処方における医療の質の向上の為、各医療機関が診療を行っている患者の診断・治療内容・治療効果等に関する情報を分析しデータベースを構築、そのデータベースを要因分析し、更なる疾病対策に役立てようとするものだったのです。

現在、一般医師の80%が漢方を処方しています。

今後とも引続き漢方医学について、そのエビデンスとなる質の高いデータを構築する事に努力を継続しなければなりません。

日本臨床漢方医会会員の皆様におかれまし

ては、このようなエビデンスとなる臨床効果にかかわるデータベースの構築にご協力をお願いしたいと思います。

21世紀の今日においても、漢方を科学し、その幅広い思想的背景にかかわる理解を深めつつ、我が国の伝統医学の一つとして、漢方医学が更に発展し、国民の健康を守る為に貢献する事を期待しています。

その為に私自身も微力ではありますが、出来る限りの努力をする所存です。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

(顧問 参議院議員 武見 敬三)

これからの日本の医療政策における漢方の位置付けについて



日本臨床漢方医会 顧問
参議院議員 自見はなこ

略歴：(全国比例区選出・当選2回) 1976年長崎県生まれ。2005年東海大学医学部医学科修了。2008年東京大学医学部小児科入局、同附属病院小児科勤務。2016年参議院議員選挙に自民党から出馬し初当選。自民党厚生労働部会副部会長を担当後、厚生労働大臣政務官を経て、現在、内閣府大臣政務官。

石川友章理事長をはじめ、日本臨床漢方医会の先生方におかれましては、西洋医学のみならず、東洋医学に関しても深い知見をお持ちになり、患者様一人ひとりに対してきめ細やかな医療を提供されておられることに心から感謝と敬意を表します。

また、2年半にわたり続くコロナ禍においても先生方が変わらず医療の最前線の現場でご尽力を頂いていることに重ねて御礼を申し上げます。

我が国では1961年から開始された国民皆保険制度によって、世界トップクラスの長寿やきわめて低い水準の乳児死亡率が得られています。

この度の新型コロナウイルス感染症への対応におきましても国民皆保険制度によって比較的高い水準の医療へのアクセスが容易であること等から、世界的にみても高齢者施設を含め極めて死亡率が低くなっております。

この国民皆保険制度を堅持することにより国民が健康に生活を送ってゆける環境を守り抜いてゆくことは、私の政治家としての最大の使命だと考えております。

漢方医学におきましては諸先輩方のお力により、漢方薬が1967年より保険適応となり、現在は148の製剤が保険収載され、一般診療においても我々医師にとって必要不可欠な存在となっています。

私も小児科・内科の医師として勤務をしていた中で日常的に様々な漢方薬を処方し、患者様の治療にあたってゆく中で、漢方薬の効用について身をもって経験をしております。

近年、日本国内において医療用漢方製剤の生産額は近年高い伸びを示しており、漢方の果たす役割はますます大きくなっているものと認識しております。

今後ますます日本の高齢化は進行し、2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、2040年には人口における高齢者率が35%前後まで上昇するとされております。

すでに先生方もご承知の通り、先進国の高齢化社会においては、いかに高齢者が自立して健やかな生活を送れるかということが大きな課題となっております。

漢方における「未病を治す」という考え方は医療政策の中でもスタンダードな考え方になってきています。

漢方医学をさらに普及させ、日本の医療の質をさらに向上させるためにも、生薬の安定的な製造・流通体制の維持やエビデンスの蓄積が課題になっており、政府も課題解決のために取り組みを進めていると承知しております。

私も医系議員の1人として、国民にとってよりよい日本の医療提供体制の構築を目指し、課題解決に向けて引き続き全力で取り組んで参ります。

これからも日本臨床漢方医会の先生方から現場のお声を頂きながら医療界の代表選手の1人として国政の場で精進してまいりたいと思います。

引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

(顧問 参議院議員 自見はなこ)